

## 第11回葛飾区公共施設見直し検討委員会 議事録要旨

日時：平成17年8月23日（火）13：30～16：00

会場：区役所7階701・702会議室

欠席委員：秋山委員、浦岡委員、佐藤三治委員、山近委員

議事

1. 開会あいさつ
2. 第11回進め方
3. 第10回委員会以後の修正点の説明
4. 全体討議
5. 区長へ答申
6. 閉会にあたって

### 1. 開会あいさつ

梶島会長 最終報告書案について、前回の委員会から今までの間に多くの委員からご意見をいただき、修正をしている。本日はそこを中心に議論し、大筋で委員の皆さんにオーソライズをいただければ区長に答申することとしたい。

### 2. 第11回進め方

事務局 本日の議論を踏まえ、修正を加えた上で最終報告書として皆さんに郵送する。本日は、議論が終わった段階で区長に答申となる。

### 3. 第10回委員会以後の修正点の説明

(事務局から前回委員会以降の修正点について説明)

- ・ 報告書全体の構成について入れ替え
- ・ P1、「はじめに」の修正
- ・ P3、高齢化率、インターネットの普及率等の数字は最新のものが入る予定
- ・ P9、「公共施設見直しの基本方針」の位置付けを明確化
- ・ P9、地域住民の主体的な運営の視点を強調
- ・ P10、事業収入を得ることは結果であり、創意工夫により事業運営できるしくみを導入することを強調
- ・ P12、本報告内容のストーリー性・理論展開を明確化
- ・ P15、保田養護は他の区外施設と別項目

- ・ P 1 8、「管理運営形態を見直す施設」としてグループ化、再表示
- ・ 廃止済み及びすでに民間運営の施設は記載省略
- ・ P 2 0、コミュニティ拠点の必要性や求められる機能について噛み砕いて表現
- ・ P 2 1、高齢者の「活用」という表現を避けた
- ・ P 3 0、モデル事業の実施は区がバックアップ、シニア世代へのアプローチ強化を盛り込む
- ・ P 3 4、「実現に向けて」として区が取り組んでいく方向性を盛り込んだ

#### 4. 全体討議

梶島会長 報告書についての意見を伺いたい。本日は、今回の変更点や全体のトーンなどを中心に議論いただきたい。

藤井委員 基本的には良い。保田養護学校についてだが、当初の設立状況から社会状況が少し変わってきている。行政の行うべき仕事ではなくなっているということはないか。親の責任という点も問われている。また、施設の方向性で指定管理者制度の導入がある。その目的はコストを削減するという点にあると思う。ただ、民間の募集の際に区でプランを考えるのだろうが、例えば駐車場は1ヶ月くらいということを決めてしまって、それがナンセンスなほど高すぎたりした場合は、民間は参入してこないような状況になるのでは。指定管理者制度を導入することを結論としてしまっているものかどうか。また、P 2 0の地域コミュニティについて、詳細に記載されているが委員会としてそこまで細かく記載すべきか。

梶島会長 前回の委員会で、保田養護学校については現段階で委員会として廃止と出すのはいかがなものかとの委員が多かったのでそうなった。委員会として廃止を入れるのはやはり疑問。設立意義も含めて存廃を検討するという点はどうだろうか。

藤井委員 反対するわけではないが、現状の利用を踏まえると利用者と利用していない人との間で不公平な気がする。

矢坂委員 委員会として、情報が十分でない中で廃止まで結論付けるのは適当でない。

酒井委員 福祉を含めた視点で必要だと思う。

梶島会長 施設の役割も今日的に見て見直していくという趣旨を盛り込むこととしたい。

梶島会長 指定管理者に関してはどうか

小林副会長 例えば料金設定については行政からは現状を示すが、基本的には民間が施設の状況を踏まえて提案することとなる。ただし、収益性の高い施設でなければ民間が手を上げづらいという点は否めない。小さい規模の施設など、民

間のビジネスになりづらいこともあり、確かに留意点はある。

- 梶島会長 コミュニティの記載についてはどうか。
- 安井委員 噛み砕いてあるのでわかりやすい。区民の方に伝わりやすいと思う。
- 菊池委員 行政の言葉はとっつきにくいものだが、これはいい。
- 梶島会長 「お互いさま」などの表現は古いと思ったが。何かいい言葉はないか。
- 寺原委員 「win-winの関係」などの表現があるが、この報告書を見る人のことを考えるとどうか。やはりこのままでよい。
- 藤井委員 ここまで詳細に書かれているとこれが全てになる。もっと幅広い意味であり、やるべきことももっとある。これ以外のことはやらなくていいんだと思われなようにしたほうがいい。ここまで親切過ぎなくてよい。
- 小川委員 ある程度噛み砕いたものが必要。これぐらいでいい。
- 梶島会長 委員会として地域コミュニティを重視しているということを踏まえ、これでいかがか。もうひとつ加えたいのは、コミュニティは人間開発の場だと思う。人との出会いの中で成長していく。成長の結果が地域の生活を明るくしていく。そのようなニュアンスを入れられないか。
- 藤井委員 地域コミュニティがうまくいくかはリーダーがいるかどうかにかかっている。そういった点も入れては。また、地域コミュニティの活動に参加してくれというだけではダメで、自分から行動するということが必要。
- 酒井委員 ただ集めるだけではダメ、参加した人が自分の役割を果たすということが重要。今各地域団体のあり方が崩れつつある。もう一度組み立てていくことが必要。
- 藤井委員 新宿プレイパークは青少年育成の方がリーダーでやっているが、その人がいる間はいいが、そうでなくなったらどうなるか。ここでも区民にやってもらおうとあるが、リーダーを作る仕組みをどう入れるかということ。
- 梶島会長 区は団体の育成支援を行うということを入れてもらった。やはり地域のリーダーや組織の育成は必要で、必要な要件として報告書にも加えている。
- 田辺委員 P 2 1 の「それぞれのライフスタイルに合わせた活動を」に自発的かつ責任をもってという文言を入れては。
- 矢坂委員 P 1 3 ～ 1 9 の施設群の方向性について、前段が施設分野別で、後段の参考が方向性別にまとめられている。この項は「各施設群の方向性」なので、参考という言葉は削除して、以上のことを踏まえた施設群の方向性は下記のとおりである、と一文を入れたほうがいい。
- 安井委員 「実現に向けて」について、「公共施設見直しに関する取り組み計画」をつくりとあるが、いつまでも見直しという言葉が続いているのもどうかと思う。
- 梶島会長 計画のネーミングについては、再考し修正する。

(休憩)

梶島会長 修正点を確認したい。

- ・ P 1 5、保田養護学校の欄に施設の役割も今日的に見直していくという趣旨を入れる。
- ・ P 1 7 参考・再掲を削除、施設群の方向性を踏まえ整理した、などの一文を入れる。
- ・ P 2 1、「それぞれのライフスタイルに合わせた自発的活動を」とし、文中にも「自発的に」を加える。
- ・ P 3 4、「実現に向けて」で、「公共施設見直しに関する取り組み計画」を「公共施設再生計画」などに。
- ・ P 3 5、酒井委員、理事長を副会長に。
- ・ 高齢化率、IT普及率など最新数値の修正。
- ・ P 2 7、「5 IT活用のメリットを活かした展開」は「4」、「6 モデルプランの実施」は「5」。

## 5. 区長へ答申

(梶島会長より青木区長へあいさつ)

私たち、公共施設見直し検討委員会では、昨年の7月から、今日まで、11回にわたり、検討を続けてまいりました。

委員会メンバーは、公募区民の方々や団体代表、学識経験者に区職員と様々な立場から積極的に、活発な意見交換がされました。

委員会における公共施設の見直し基本方針を定め、廃止や機能転換、配置数の見直し、管理運営形態の見直しなどの各施設群の方向性、また、集会施設の廃止基準などについても検討いたしました。そのうえで、施設ハードの検討だけでは越えることができない様々な課題、施設の利便性を高め、住民が地域の中でより豊かな時間を過ごすためにはどうしたらいいのか、などを考え、地域コミュニティに関する考察をし、コミュニティ拠点施設の再編成、また、IT活用のメリットを活かした展開、建て替え時などのモデルプランへと検討を進めました。

わたくしたち、葛飾区公共施設見直し検討委員会での、この検討結果には、すぐさま区が実現のために取り組んでいただける課題と、その実現には、時間をかけ、じっくりと様々な条件を整えていくべきものがあると認識しています。

すぐに実現できるものについては、計画を定め、順次取り組んでいただくとともに、少し長いスパンで条件を整備しなければならない課題についても、着実に確実に歩みを進めていただけるよう、お願いをいたします。

私たちのこの検討結果を、葛飾区の施設の有効活用や豊かなコミュニティの醸成につなげていただきたいと希望しております。また、検討結果のみならず、この検討委員会を通して生まれた区民と行政との間に生まれた理解や関係も、今後の葛飾区政の運営にとって、意義ある種となつて欲しいと願っております。委員を代表いたしまして、答申に際し、ひとこと、希望を述べさせていただきます。

それでは、私たち葛飾区公共施設見直し検討委員会の答申をさせていただきます。

(梶島会長から青木区長へ答申)

(青木区長から委員へあいさつ)

ただ今、梶島会長さんから「葛飾区公共施設見直し検討委員会報告書」をいただきました。

昨年の7月から、本日までと、1年以上、11回にわたり、検討いただきました。

みなさまがたのこれまでの尽力に大変感謝しています。

現在、「区民と創る元気なかつしか」の実現に向け、平成18年から27年までの葛飾区のあるべき姿、将来像を描く、「新基本計画」の策定を進めています。そちらの方の委員を兼ねていただいている方もおられますが、そのための財源の確保の手立てとして、経営改革による効率化を図ってまいりました。平成10年以降、経営改革宣言のもとにこれまで183億円の削減効果を上げたところです。これからも経営改革に引き続き取り組んでいくための指針となる、(仮称)葛飾区経営改革大綱の策定も進めています。

この、公共施設の見直しも、効率的・効果的な行政運営を進め、区民のみなさまと共に元気で活気のある葛飾区をつくりあげていくための取り組みの一環として着手したものです。

今回、施設の削減策にとどまることなく、区民の生活を豊かにすることを目指した地域コミュニティのあり方、また、将来的に建て替えが行われる際のモデルプランなど、夢や希望ある内容についても検討し、盛り込んでいただいたと伺っています。

今後は、この公共施設見直し検討委員会の報告を受け、区として、見直しを具体的にどのように進めていくのか、年次計画なども含め、本年中を目途に実施プランをまとめ、そのうえで、具体的な見直し策に着手し、皆様方の検討事項を着実に推進していく所存です。

会長のご指摘のとおり、すぐできるものはすぐに、時間をかけるべきものについてはそのように検討してやっていきたいと考えています。

今後とも、公共施設の見直しをはじめ、区政の様々な分野について、ご意見をお寄せいただくとともに、ご一緒に暮らしやすいまちづくりのために、ご協力をお願いします。

本日は、ありがとうございます。

## 6. 閉会にあたって

- 安藤委員 この委員会に参加したことで公共施設に対してコスト意識を持つようになった。このような機会が気軽な感じでこれからも作られていけばよいと思った。施設というとハード中心だと思っていたが、ソフト、人とのつながりが大切。今後、区の計画に盛り込まれているかチェックしていきたい。
- 藤井委員 言いたいことを言わせてもらった。
- 佐藤光一委員 ハンデがある人にもぜひ手を差し伸べてほしい。地域福祉・障害者センターでも地域の人と一緒に取り組みができています。
- 菊池委員 地域に帰って、地域の皆さんに報告書の話をしてほしい。
- 洙田委員 ハードだけでなくいろいろな面で考えさせられた。
- 柏崎委員 社会教育館は、この報告書を前提に現場で検討をはじめている。学校については、わくチャレが今年度で全校実施となる。学校と地域が近くなった。コミュニティスクールも時間がかかるが検討していきたい。
- 青木委員 モデルプランは早期に決めていきたい。地域コミュニティのあり方について検討していきたい。
- 寺原委員 これまで地域のことを知らなかった。いろいろな意見を聞いてよかった。若い人をもっと巻き込んでいきたい。
- 安井委員 これはまだはじまり。ハードをやっていく段階になって中途半端にならないように。いい公共施設作りに今後も関わっていきたい。
- 大島委員 NPO・ボランティアとして施設を使う立場だったが、利用者の立場で見てみた。今後もお手伝いできることあればやっていきたい。
- 小川委員 行政は縦割りのものだったが、この見直しにより新しく息を吹き込んでほしい。最初、施設の見直しはテーマが大きいと思っていたが、議論が進む中で地域コミュニティ作りのことだったかとわかった。施設には既得権もあり、今後の課題だ。
- 長尾委員 まちづくりを真剣に考えていきたい。
- 山中委員 当初、旧学校を地域のコミュニティ拠点にできないかという思いがあった。いかに縦の壁が厚いかと思い知らされた。原点はコミュニティ。世代間のコミュニティセンターが必要。モデルプラン作りも委員会の中でやりたかった。区としてモデル地域づくりを進めてほしい。残念だったのは最後の会に地域代表の方が欠席されたことだ。
- 田辺委員 施設には縛りがある。条例に基づいているので、時代の変化に応じて柔軟な施設運営ができない。より自由度を持つように普通財産化を図っていくことが必要。行政とパートナーとなっていくことができる。葛飾区は潜在力がある。地域力がある。モデルをやりたいと手が挙がってくるのも良い。

小林副会長 国では指定管理者制度など、民間市場に委ねることだけが議論されているが、委員会ではコミュニティの話が中心となってよかった。モデルプランの具現化についてはハードルもあると思うが、ぜひ環境作りに取り組んでほしい。

矢坂委員 地域にまちづくりの危機感がないと思っていたが、委員会の中で変わってきた。現実を起こしていくのは大変、リーダーが重要という点について考えさせられた。自分も宿題としたい。

梶島会長 熱心な委員の皆さんのおかげで報告書が完成した。葛飾区を魅力的な町と感じるようになったし、魅力的な人に恵まれた。今後についても委員の皆さんにはいろいろところで議論して行ってほしい。区の取り組みの進捗状況に今後も目を光らせていきたい。長い期間、委員の皆さんにはご協力いただきありがとうございました。これで閉会とします。